

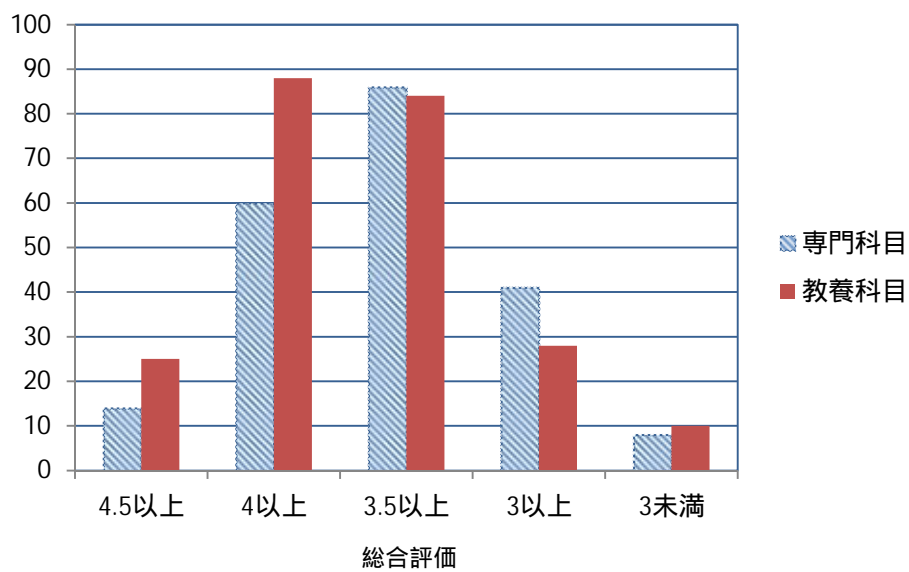
【年度計画21】

平成23年度 前期授業評価アンケート 問5(総合評価)の階層別科目数

総科目数 444

	4.5以上	4以上	3.5以上	3以上	3未満	合計
専門科目	14	60	86	41	8	209
教養科目	25	88	84	28	10	235

科目数



【年度計画21】

授業評価アンケート問5(総合評価)が3未満の科目数の推移 (H21年前期からH23年前期)

2012/1/13

数値は科目数

	H21年前期	H21年後期	H22年前期	H22年後期	H23年前期
総科目数	431	437	430	445	444 [*] (458)
教養教育	6	7	11	5	10
医学部		2		2	(1) ^{**}
薬学部	3	3	5	1	1
経済学部	3	3	5	4	2
人文社会学部	4	3	2	4	3
芸術工学部	2	5	0	3	0
看護学部	1	2	0	2	2
全学合計^{***}	19	25	23	21	18

*医学部23年前期集計科目は通常後期で合算するため除外した講義数。
(458)は医学部前期集計科目を含めた数。

**医学部23年前期()の数字は後期で集計するため、参考の数値で、H23年前期の全学合計からは除外してあります。

***教養教育を含めた合計。

【年度計画 24】

最先端・次世代研究開発支援プログラム

採択された研究課題の概要

1) テーマ 成体脳室下帯に内在する神経再生機構とその操作技術

1. 研究背景

胎児や新生児だけでなく、大人の脳においても新しい神経の細胞がつけられていることがわかってきた。脳は一度傷つくと治らないと考えられてきたが、動物を使った実験によって、以外に高い再生能力があることが明らかになった。

2. 研究の目標

脳の中で生まれた細胞がどのように脳の中を移動して目的地に到達し、傷ついた脳を再生するのかを明らかにする。次に、そのしくみを使って、病気や事故で失われた脳細胞を再生させることができるかどうかを調べる。

3. 研究の特色

現在、iPS細胞などを使って作った神経細胞を移植する再生医療に期待が集まっている。一方、この研究は脳がもともと持っている修復能力のしくみを詳しく調べ、それを利用して再生を誘導することを目指すものである。細胞を移植せずに脳の細胞を再生することができれば、より安全で治療効果の高い再生医療が可能になると期待できる。

4. 将来的に期待される効果や応用分野

脳こうそくなど現在根本的な治療方法が存在しない脳の病気が治るようになり、医療費の抑制や介護負担の軽減にもつながる。また、本研究によって再生医療の基盤技術が開発されれば、医薬品・医療機器・医療材料関連業界などにおける新たな産業・雇用の創出につながる。

2) テーマ 再生医療・癌治療への細胞老化の分子機構の利用 - エピジェネティクスからのアプローチ

1. 研究の背景

再生医療とは失われた組織や器官を、自己の細胞から再生して治療する革新的な医療である。しかし幹細胞(細胞を作る働きをもつ細胞)移植の際に残存する未分化細胞が容易に腫瘍を形成するため、再生医療の実現化は安全面において問題を抱えている。そこで腫瘍化防御機構として注目を浴びている細胞老化の分子機構を明らかにし、老化特性を腫瘍細胞に導入するという、独創的な考えを導き出した。

2. 研究の目標

ほとんど理解されていない細胞老化の分子機構を明らかにする。そしてその知見を利用して腫瘍細胞に細胞老化の性質を導入し、腫瘍化防止技術を開発する。最終的に臨床応用し、国民の健康社会の実現に寄与することを目指す。

3. 研究の特色

細胞の腫瘍化についての独自の研究成果に立脚したアプローチで独創性の高い研究成果を生み出す点と、世界的にトップレベルの研究グループとチームを組み、基礎から臨床応用まで幅広く取り組む点が本研究の特色である。

4. 将来的に期待される効果や応用分野

再生医療の実現化に加え得られた知見や確立した技術を、抗がん剤の開発、がんの診断マーカー、癌治療、アンチエイジングの開発など極めて重要な分野に応用できる。



平成23年度 名古屋市立大学
一健康科学講座

オープンカレッジのご案内
(第1期)

今日、科学技術は大きく進歩し、私たちはその恩恵に浴しています。科学の進歩は日進月歩であり、かつて学んだ知識は古く役立つものがあります。また、身の回りには多くの情報が氾濫して、どれをどう自分の生活に生かしていくべきか、戸惑うことが多々あります。

本オープンカレッジでは、本学の基礎・臨床分野が蓄積している最新の研究情報を、市民の皆様にわかりやすく解説いたします。皆様には、自己研鑽と再学習の場としてとらえ、日々の生活を営めるものに、また、将来の生活設計のために役立てていただければ幸いです。

開講科目： 科目名「炎症と再生」

と期間 平成23年6月10日(金)～7月29日(金) 時間は18:30～20:00の90分授業で週1回、全8回で構成。

受講者は原則として8回を通して受講をお願いします。

募集定員： 80人

受講料： 8,000円 開講初日にお支払いいただけます。

募集対象： 教育・保育・福祉関係者、医療関係者、行政自治体関係者、企業関係者等幅広い社会人及び一般市民(学生・大学院生の聴講可)

応募受付期間： 平成23年5月2日(月)～5月20日(金)

応募方法： 往復はがき または eメール

応募申込記入事項：

(往復はがきの往信の表裏)

<p>4 6 7 8 9 0</p> <p>名古屋瑞穂区瑞穂町字川澄1 市立大学医学部 オープンカレッジ担当 宛</p>	<p>(返信の表裏)</p> <p>□□□□□□□□ 氏名 下さい。ご記入</p>	<p>(宛人住所)</p>
<p>1 応募科目名</p> <p>2 氏名(ふりがな)年齢</p> <p>3 住所・電話番号</p> <p>4 (E-メール)アドレス</p> <p>5 職業</p> <p>6 応募の動機</p> <p>7 緊急連絡先 (平日の昼間に連絡をとる場合の連絡先をご記入下さい)</p>		

eメール宛先

igakubuoc@sec.nagoya-cu.ac.jp

(上記はがきと同様に応募申込事項をご記入ください。)

選考方法： 応募人数が定員を大幅に超えた場合は、応募動機も参考にしながら抽選することがあります。

選考結果： 平成23年5月31日(火)までお知らせします。

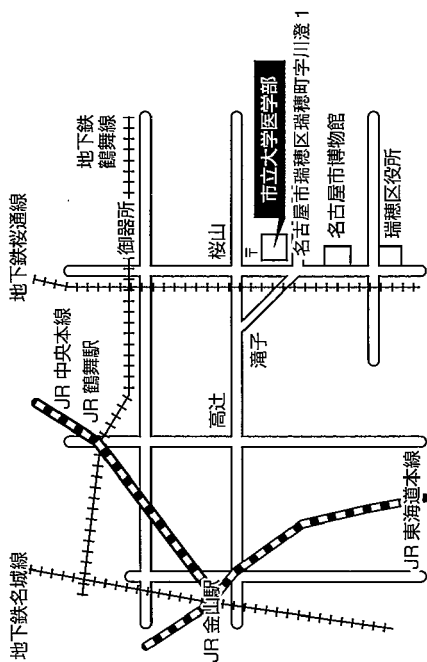
問い合わせ先： 名古屋市立大学医学部事務室 オープンカレッジ担当

467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 tel:052-853-8077

ホームページアドレス： <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/philanthropy/index.html>

※お寄せいただいた情報は、個人情報保護の観点から外部流出などがないよう厳正に管理します。また、当該目的以外には、使用いたしません。

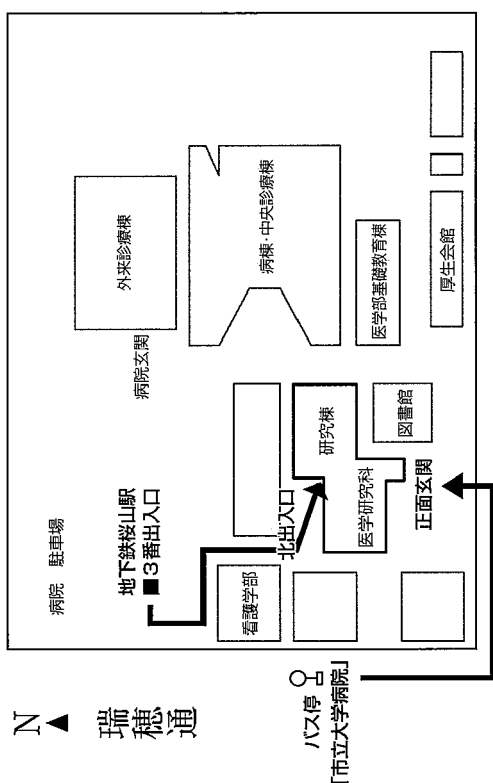
オープンカレッジ会場 案内図



【交通機関】

金山駅から市バス「市立大学病院」下車、または名古屋市立大学から地下鉄桜山線「桜山」下車

注：お車でのご来場はご遠慮ください



医学研究科研究棟 11階 講義室 A

医学研究科研究棟は、北出入口(病院側から来られるとき)または正面玄関から入って、1階ロビーよりエレベーターで11階へお上がりください

このリーフレットは再生紙を使用しています。

科目名 「炎症と再生」

コーディネーター 医学研究科 機能解剖学 教授 池田 一雄

炎症は、古典的には、発赤、発熱、腫脹、疼痛を伴うものとして知られ、その原因は感染、外傷、毒性物質の暴露、自己免疫の破壊など様々であります。この様な原因に対して生体の細胞、組織が応答し、組織修復、再生によって恒常性を維持するようになり反応しているのです。また、古くから炎症の遷延化により癌を引き起こされることが疫学的に知られてきましたが、最近の医学の進歩により、C型肝炎と肝臓癌、ピロリ菌感染と胃癌、慢性潰瘍性大腸炎と大腸癌など、分子レベルでそのメカニズムが明らかになってきました。このコースでは、基礎と臨床の両面から、この炎症と再生に焦点を当て、解説いたします。是非、多くの皆様のご参加をお待ちいたしております。

6月10日(金) 炎症の基礎

稲垣 宏 (医学研究科 臨床病態病理学 教授)
炎症は日常よく遭遇する変化ですが、その仕組みはなかなか複雑です。炎症は、障害因子および障害された組織に対して起きる生体の局所的防衛反応と定義されます。この反応は単一な病態ではなく、微少損傷系を中心として、ある一定の反応経路が連鎖的に展開される仕組みになっています。炎症は本来、自己防衛的なものですが、自己組織に対して障害的に働く場合もあります。本講義では、基本的な炎症過程や炎症により障害された組織の再生過程を分かりやすく解説し、炎症と関連するいろいろな臨床病態について解説いたします。

6月17日(金) 炎症応答の引き金を引く「分子スイッチ」とリウマチ・膠原病の発症機構の研究からがん・白血病治療の展望が見えてきた

岡本 尚 (医学研究科 細胞分子生物学 教授)
炎症応答には種々のサイトカイン、細胞接着分子、細胞増殖因子など極めて多数の生体分子が参画しています。私たちはこれらの遺伝子の発現調節機構を分子レベルで追究してきました。特に、NF- κ Bと呼ばれる転写因子が総括的に重要な働きをしています。NF- κ Bは細胞の外部分からのシグナルによって活性化されますが、これらの反応の制御がリウマチ及び自己免疫疾患の治療につながることをわかりました。興味深いことに、同様の分子機構が悪性腫瘍の進展と拡散にも関与していること、また同様の治療法ががんや白血病にも有効であることが明らかになっています。

6月24日(金) Helicobacter pylori感染と胃炎、胃潰瘍、胃癌の発生

片岡 洋望 (名古屋市立大学病院 内視鏡部 准教授)
1983年、それまで無菌とされた胃にヘリコバクター・ピロリ菌が発見され、発見者のWarrenとMarshallは2005年ノーベル医学生理学賞に輝きました。わが国では昨年、胃・十二指腸潰瘍に加えて、胃癌、MALTRリンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病に対するピロリ菌除菌の保険適用が厚労省により追加され、ピロリ菌は広く知られる存在となっています。本講義では、ピロリ菌による胃炎発症のメカニズム、慢性胃炎をベースに発生する胃潰瘍、胃癌の病態、さらに最新のピロリ菌の診断法・治療法について解説します。

7月11日(金) 関節リウマチの病態と治療

小林 正明 (医学研究科 整形外科 病院教授)
関節リウマチは代表的な自己免疫疾患であり、全身疾患であるが、関節滑膜炎に炎症の主体があるため関節の疼痛、腫脹、可動域制限をきたし、進行すると関節破壊、関節機能障害が著明になり、日常生活動作を初めとして多くの障害をきたします。その治療には、基礎療法、薬物療法、手術療法、理学療法などがありますが、最近の薬物療法の進歩は目覚ましいものがあります。今回は、手術療法、薬物療法を中心に関節リウマチの病態と治療について解説します。

7月8日(金) 肝臓の炎症と再生

野尻 俊輔 (医学研究科 消化器・代謝内科学 講師)
肝臓は古代の神話に出てくるように、昔から再生能力が旺盛な臓器として知られています。急性肝炎後は、その障害の程度に応じ速やかに再生し回復します。肝移植のドナー肝や転移性肝癌の手術時にも再生が速やかです。しかし、肝硬変の場合や劇症肝炎の場合などは、肝臓の再生がスムーズに行われず、しばしば肝不全などの深刻な合併症を伴います。肝臓の再生に係わる研究の歴史は非常に古いものの、実はまだ解明されていない事も多くあります。今回の講義では、一般的な肝炎(B,C型、脂肪性肝炎など)における炎症と再生のメカニズムや肝切除後の絶妙ともいえる再生のからくりを例を含めて紹介いたします。

7月15日(金) 臓器線維症

池田 一雄 (医学研究科 機能解剖学 教授)
様々な原因により炎症を引き起こされた後には、細胞、組織が応答し、恒常性を維持するようになり反応し組織修復、再生がもたらされます。しかしながら、炎症の遷延化、過剰な組織応答により臓器線維症がもたらされます。臓器線維症とは、コラーゲンをはじめとする細胞外マトリックスが組織に過剰に沈着し、臓器の機能不全をきたす病態をいいます。今回は、肝臓での線維化に重要な役割を果たす肝星細胞の活性化と臓器線維症について分かりやすく解説します。

7月22日(金) C型肝炎ウイルスと肝がん

田中 靖人 (医学研究科 ウイルス学 教授)
C型肝炎ウイルス(HCV)に感染すると急性肝炎を発症し、約70%は慢性肝炎に移行します。この状態は肝臓内にHCVが持続感染している状態で、生体にとっては異物でありますから、免疫反応により持続的な炎症が見られます。肝細胞は破壊され、再生を繰り返すうちに、約20-30年の経過で肝硬変から肝臓癌に至ることが知られています。わが国における肝臓の年間死亡者数は約3万4千人とピークを迎えています。HCVは肝臓の約70%に関与しており、HCV感染に対する治療法の確立ははと重要であることが理解できます。現時点でこの不可逆的な進展を阻止できる最善の手段として、インターフェロンをベースとした治療があります。ここでは最近の知見を交えて、C型肝炎に対する個別化医療の可能性についてお話します。

7月29日(金) 脳に存在する幹細胞と神経再生

澤本 和延 (医学研究科 再生医学 教授)
近年の研究によって、成人の脳の中でも新しい神経細胞がつくられることがわかってきました。さらに、動物を使った実験によって、病後や事故で失われた脳細胞の一部が再生することもわかりました。このような脳細胞の再生の鍵を握っているのが、私たちの脳の中にある「幹細胞」と呼ばれる細胞です。幹細胞による神経細胞の再生能力と、それを活かした脳疾患の治療の可能性について解説します。



平成23年度 名古屋国立大学
一健康科学講座—

オープンカレッジのご案内 (第2期)

今日、科学技術は大きく進歩し、私たちはその恩恵に浴しています。科学の進歩は日進月歩であり、かつて学んだ知識は古く役立つものがあります。また、身の回りには多くの情報が氾濫して、どれをどう自分の生活に生かしていくべきか、戸惑うことが多々あります。本オープンカレッジでは、本学の基礎・臨床分野が蓄積している最新の研究情報を、市民の皆様がわかりやすく解説いたします。皆様には、自己研鑽と再学習の場としてとらえ、日々の生活を更なるものに、また、将来の生活設計のために役立てていただければ幸いです。

・開講科目： 科目名「**名市大発の新医療へ向けて（モデルを用いた挑戦）**」
と期間： 平成23年9月9日（金）～11月4日（金） 時間は18:30～20:00の90分授業で週1回、全8回で構成。
受講者は原則として8回を通して受講をお願いします。

募集定員： 80人
受講料： 8,000円 開講初日にお支払いいただきます。
募集対象： 教育・保育・福祉関係者、医療関係者、行政自治体関係者、企業関係者等幅広い社会人及び一般市民（学生・大学院生の聴講可）

応募受付期間： 平成23年8月1日（月）～8月19日（金）
応募方法： 往復はがき または e-メール
応募申込記入事項：
(往復はがきの往信の表裏)

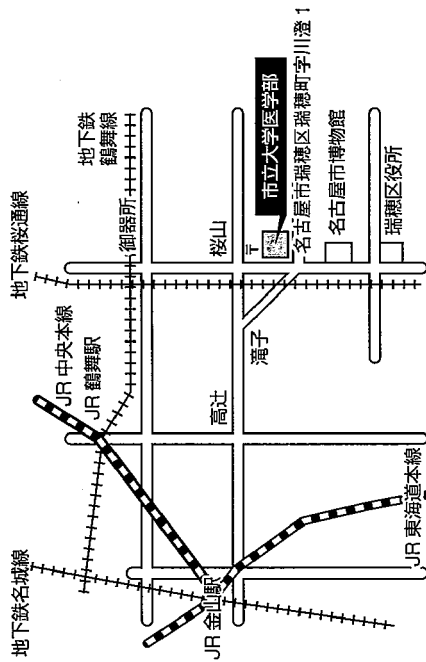
<input type="checkbox"/>	4 6 7 8 9 0	名 古 屋 市 立 大 学 医 学 部 瑞 穂 区 瑞 穂 町 字 川 澄 1 オ ー プ ン カ レ ッ ジ 担 当 宛			
<p>1 応募科目名 2 氏名(ふりがな)年齢 3 住所・電話番号 4 (e-メールアドレス) 5 職業 6 応募の動機 7 緊急連絡先 (平日の昼間に連絡をとる場合の連絡先をご記入下さい)</p>					
(返信の表裏)					
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>					
氏名(ご記入)					
住所					
(何もしないでください)					

e-メール宛先 igakubuc@sec.nagoya-cu.ac.jp
(上記はがきと同様に応募申込事項をご記入ください。)

選考方法： 応募人数が定員を大幅に超えた場合は、応募動機も参考にしながら抽選することがあります。
選考結果： 平成23年8月31日（水）までにお知らせします。
問い合わせ先： 名古屋国立大学医学部事務室 オープンカレッジ担当
467-8601 名古屋瑞穂区瑞穂町字川澄1 tel:052-853-8077

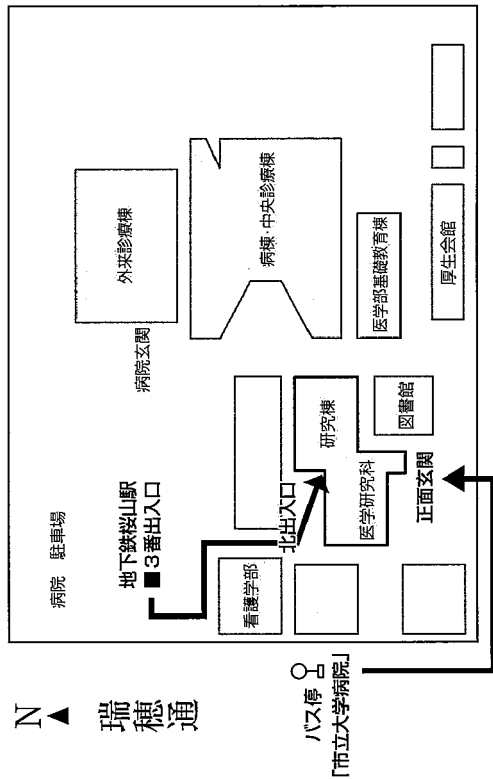
ホームページアドレス: <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/philanthropy/index.html>
※お寄せいただいた情報は、個人情報保護の観点から外漏流出などがないよう厳正に管理します。また、当該目的以外には、使用いたしません。

オープンカレッジ会場 案内図



〔交通機関〕

金山駅から市バス「市立大学病院」下車、または名古屋駅から地下鉄桜通線「桜山」下車
注：お車でのご来場はご遠慮ください



医学研究科研究棟 11階 講義室 A

医学研究科研究棟は、北出入口（病院側から来られるとき）または正面玄関から入って、1階ロビーよりエレベーターで11階へお上がりください

このリーフレットは再生紙を使用しています。

科目名 「名市大発の新医療へ向けて (モデルを用いた挑戦)」

コーディネーター 医学研究科 病態モデル医学
教授 三好 一郎

私たちは、最先端の医療を提供する目的で、生命の仕組みを理解し病気の原因を解明する研究を行い、さらに新たな診断・治療法を開発しています。また、優れた医師を養成するために多様な教育方法を実践しています。医学はヒトを対象としますが、研究の過程や教育では、他の動物やモデルで得られた結果をヒトに外挿したり、シミュレーション可能なことが知られています。本コースでは、モデルを用いた独自の挑戦として、癌の治療、および、脳卒中等の脳血管疾患の治療、重症心疾患の治療(心移植)、ウイルス性肝炎の治療に加え、医学教育を含めて名市大から発信する新たな医療をご紹介します。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

9月9日(金) 動物実験の役割と実験動物福祉

三好 一郎(医学研究科 病態モデル医学 教授)
動物実験は、人類や動物の健康と幸福に欠かせないものと考えられます。しかし、生きとし生けるものすべての生命の尊厳を尊重すること相反するわけではありません。再現性の高い良質な動物実験を遂行することと実験動物の福祉を求めることは、矛盾しないどころかむしろ相乗効果をもたらす関係にあります。本学では、法律や文部科学省の基本指針を遵守し、3Rの基本原則(代替および使用動物数の削減、苦痛の軽減)に則り、科学および動物愛護の双方の観点から適正な動物実験を自主・自律的に実施しています。この講義では、私共の動物実験倫理の取り組みをご紹介します。

9月16日(金) 磁場を用いたがんに対する新しい温熱治療

河合 憲康(医学研究科 腎・泌尿器科学 講師)
磁場の中で発熱する磁性微粒子を腫瘍組織に注入し、磁場照射により腫瘍組織のみ45℃以上に上昇させる新しい温熱治療を開発しました。ラットやマウスでの動物実験では悪性黒色腫、大腸癌、骨肉腫など様々な癌腫、また泌尿器系癌については前立腺癌に対する治療効果が確認されました。研究途中で、ラット神経鞘腫では同一個体で磁場組織内加熱法を実施していない腫瘍まで退縮することが認められ、温熱免疫の賦活化により臨床段階では転移巣の治療への可能性も示されました。現在、前立腺がんに対する臨床試験として準備を進めています。

9月30日(金) 脳卒中治療法開発とモデル動物

間瀬 光人(医学研究科 脳神経外科学 病院教授)
脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)は我が国における三大死因の一つです。脳卒中において予防が大切であることは言うまでもありませんが、発症してしまつた脳卒中に対しても後遺症を少なくするための治療法の開発が日々行われています。それは新薬、新しい手術法、医療機器、医療材料の開発ですが、その有効性がヒトで証明されて初めて一般的な治療として導入されます。そのために必ず通らなければならないのが動物を用いた治療法の有効性に関する研究です。この講義では最新の脳卒中治療とそれを支えてきた脳卒中モデル動物について概説致します。

10月7日(金) 腫瘍溶解性ウイルスによる新しい癌治療

森 徳(名古屋国立大学病院 化学療法部 助教)
癌の治療において抗腫瘍剤などの単独での治療効果には限界があり、集学的治療の重要性が認識されてきています。正常な細胞には害を与えず、腫瘍細胞に特異的に感染する腫瘍溶解性ウイルスによる癌治療、すなわち癌ウイルス療法は癌治療における新たな選択療法の一つと考えられています。現在、欧米ではこの一つである腫瘍溶解性レオウイルスを用いた臨床試験が進められています。今回の講義では腫瘍溶解性レオウイルスによる癌治療の概説を行い、我々が行っている実験について紹介致します。

10月7日(金) がん治療を目的とした腫瘍細胞の分子標的薬の開発

島田 毅(医学研究科 細胞生物学 講師)
生物のもつ遺伝情報DNAには恒常的に放射線や紫外線、化学物質などによって傷が入っています。そのようDNA損傷に対して生物は複数の防御機構(チェックポイント、DNA修復、アポトーシス誘導、早期細胞老化)を持っており、これらの防御機構の破綻は発癌や様々な遺伝子疾患をもたらします。我々は細胞内にある特定の酵素がDNA損傷をいち早く感知し、がんの発生・増殖を防いでいることを見出し、腫瘍その標的薬を中心に細胞増殖と細胞老化の分子機構を解明し、腫瘍化を防御する手法の開発を目的とした最近の成果を報告致します。

10月14日(金) 脳内出血および脳性小児麻痺の基礎医学研究:まずは病態モデル動物の開発から

飛田 秀樹(医学研究科 脳神経生理学 教授)
脳内出血(ICH)の発症率は非常に高く、運良く生存した人でもその後遺症に悩む人が多くいらっしゃいます。保存的治療法が中心となり、より積極的な治療法はまだまだ確立されていません。一方、低体重出生未熟児に好発する脳室周囲白質軟化症(PVL)の病因として、稀突起膠細胞の前駆細胞が選択的に虚血に弱いことが報告され、その病態が明らかになりつつあります。我々は、より良い医療の確立を最終目的としその基礎医学研究を進めています。疾患の病態を反映する動物モデルの存在が非常に重要であると実感しています。本講義では、内包部近傍の外出血で大きな運動麻痺を示す内包ICHモデル動物とPVLモデル動物の開発過程、またモデル動物を用いた基礎実験研究の成果を紹介致します。

10月21日(金) 異種心移植と人工心臓 - 重症心疾患への役割 -

浅野 貴樹(医学研究科 心臓血管外科学 病院教授)
薬劑療法や電気的な心臓再同期療法などにより心不全に対する治療は目覚ましい進歩を遂げていますが、末期重症心不全にたいする唯一の根治術は心臓移植といえます。有効な治療であるにも関わらず多くの移植適応患者がその恩恵に与れない大きな要因は深刻なドナー(臓器提供者)不足にあります。この問題を解決する一法として異種の動物をドナーとする異種心移植が以前より考えられていますが、同種心移植以上に超えてはならない高いハードルがあることも事実です。今回は、これらのハードルを越えるために考案施行された実験モデルをご紹介します。今回は人工心臓との対比を交えながら異種心移植の臨床的現実性を考えてみたいと思います。

10月28日(金) ヒト肝臓を持つキメラマウス〜肝炎モデル

田中 靖人(医学研究科 ウイルス学 教授)
肝臓は大人になっても再生能力を持つ臓器として知られ、様々な代謝を司る重要な臓器です。近年、ヒト肝細胞をもつキメラマウスが開発され、医薬品開発におけるヒトの薬物動態やヒトの肝細胞に感染して病原性を発揮するB型肝炎ウイルスやC型肝炎ウイルスの感染モデルとして利用されるようになりました。肝炎ウイルスは、ヒトに感染すると、急性肝炎を発症し、その一部は慢性肝炎から肝硬変、肝がんに至ることが知られていますが、詳細は明らかになっていません。ここでは、肝炎モデルを用いた病態進展メカニズムの解明及び肝炎に対する新たな治療薬の開発について話題提供します。

11月4日(金) 患者モデル人形を用いたシミュレーション/医学教育について

増田 和彦(名古屋国立大学病院 救命救急センター 助教)
近年医学部における医学教育では、様々な教育手法やカリキュラムなどが考案され、それをもとにした教育が広く行われています。とくに蘇生教育において、約10年前より患者モデル人形を用いたシミュレーション教育が行われるようになり、数年前からは蘇生教育のみならずその他の臨床分野においてもシミュレーション教育の手法が導入されてきております。そこでシミュレーション教育について、また患者モデル人形をご紹介するとともに、シミュレーション教育の臨床応用についての取組みをご紹介します。

オープンカレッジのご案内 (第3期)

今日、科学技術は大きく進歩し、私たちはその恩恵に浴しています。科学の進歩は日進月歩であり、かつて学んだ知識は古く役立つものがあります。また、身の回りには多くの情報が氾濫して、とれをどう自分の生活に生かしていくべきか、戸惑うことが多々あります。

本オープンカレッジでは、本学の基礎・臨床分野が蓄積している最新の研究情報を、市民の皆様がわかりやすく解説いたします。皆様には、自己研鑽と再学習の場としてとらえ、日々の生活を爽やかなものに、また、将来の生活設計のために役立てていただければ幸いです。

開講科目： 科目名「DNA多型—個人識別から臨床応用まで」
と期間： 平成23年11月18日(金)～平成24年1月20日(金) 時間は18:30～20:00の90分授業で週1回、全8回で構成。受講者は原則として8回を通して受講をお願いします。

募集定員： 80人

受講料： 8,000円 開講初日にお支払いいただきます。

募集対象： 教養・保育・福祉関係者、医療関係者、行政自治体関係者、企業関係者等幅広い社会人及び一般市民(学生・大学院生の聴講可)

応募受付期間： 平成23年10月11日(火)～10月28日(金)

応募方法： 往復はがき または e-メール

応募申込記入事項：

(往復はがきの往信の表裏)

<input type="checkbox"/>	名古屋市立大学医学部事務室 オープンカレッジ担当宛
<input type="checkbox"/>	名古屋市瑞穂区瑞穂町字川濑1
<input type="checkbox"/>	〒467-8601

<input type="checkbox"/>	1 応募科目名
<input type="checkbox"/>	2 氏名(ふりがな) 年齢
<input type="checkbox"/>	3 住所・電話番号
<input type="checkbox"/>	4 (e-メールアドレス)
<input type="checkbox"/>	5 職業
<input type="checkbox"/>	6 応募の動機
<input type="checkbox"/>	7 緊急連絡先 (平日の昼間に連絡をとる 場合の連絡先をご記入 下さい)

<input type="checkbox"/>	あなた の住所 を ご 記 入
--------------------------	--------------------------------

<input type="checkbox"/>	(電 記 入 し は じ り と す ま い。)
--------------------------	--

e-メール宛先

igakubuoc@sec.nagoya-cu.ac.jp
(上記はがきと同様に応募申込事項をご記入ください。)

選考方法： 応募人数が定員を超えた場合は、応募動機も参考にしながら抽選することがあります。

選考結果： 平成23年11月9日(水)までにお知らせします。

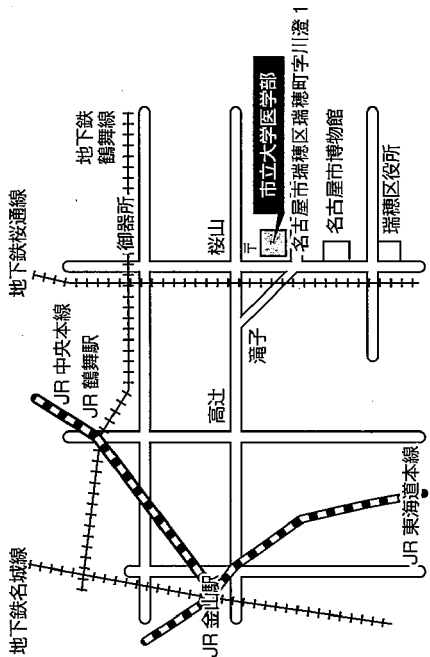
問い合わせ先： 名古屋市立大学医学部事務室 オープンカレッジ担当

467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川濑1 tel:052-853-8077

ホームページアドレス： <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/philanthropy/index.html>

※お寄せいただいた情報は、個人情報保護法の観点から外部流出などがないように厳正に管理します。また、当該目的以外には、使用いたしません。

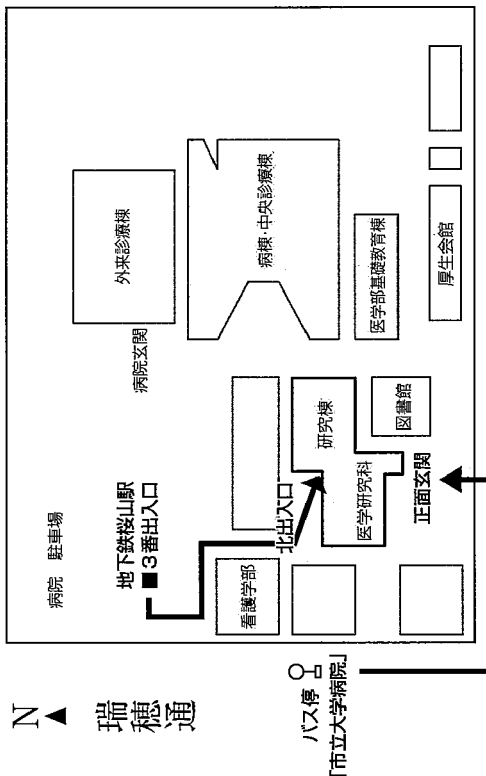
オープンカレッジ会場 案内図



〔交通機関〕

金山駅から市バス「市立大学病院」下車、または名古屋駅から地下鉄桜通線「桜山」下車

注：お車での来場はご遠慮ください



医学研究科研究棟 11 階 講義室 A

医学研究科研究棟は、北出入口(病院側から来られるとき)または正面玄関から入って、1階ロビーよりエレベーターで11階へお上がりください

このリーフレットは再生紙を使用しています。

科目名 「DNA多型—個人識別から臨床応用まで」

コーディネーター 医学研究科 法医学 教授 青木康博

遺伝子の本体であるDNAはヒトを始めとする生物が生きていくために重要な物質ですが、ヒトそれぞれDNAには差異がでて、それを用いて個人を厳密に識別することが可能であり、犯罪捜査や身元の確認等に利用されています。またその差異によりヒトをグループ分けするの論争に大きな影響を与え、一方で、薬剤感受性や疾患感受性の違いを見出し、治療や予防に利用するという試みも盛んになされるようになり、DNA多型およびその検出法の原理を学び、その応用としてのDNA鑑定、ヒトの系統解析および臨床応用の実際を知り、さらにその能力や限界について考察します。

11月18日(金) DNA多型概論

青木康博(医学研究科 法医学 教授)
DNAは我々の身体を形作り、機能を発現させるタンパク質の設計図ですが、突然変異などによりその塩基配列にはさまざまな差異が生じます。突然変異はDNAをコードする領域にも生ずるため、それが疾患感受性や薬剤感受性に関わるだけでなく、信頼性の高い個人識別の指標となったり、ヒトの系統を解析する手段として利用されます。ここでは導入として、多型現象の成り立ちについて概説するとともに、その研究・実務への利用法を紹介致します。

11月25日(金) 法医学におけるDNA鑑定の歴史

那谷雅之(三重大学大学院医学系研究科 法医学 教授)
1985年に英国レンスター大学の遺伝学者ジェフリーズがDNAフィンガープリント法を用いた個人識別、親子鑑定を報告したのがDNA鑑定の始まりです。その驚異的な能力は注目を浴びましたが、DNA鑑定が現在のように普及したのは遺伝子の特定領域を特異的に増幅させるPCR法の登場以来です。そのPCR法を用いたDNA鑑定方法も次々と新しいものが開発され、現在ではSTRと呼ばれる短い反復配列を検出する方法が主流となっています。DNA鑑定登場から現在までの鑑定の歴史をお話します。

12月2日(金) DNA鑑定による個人識別

青木康博(医学研究科 法医学 教授)
DNA型は現在、指紋・歯科所見と並んで特定個人の識別法として医学的・科学的に認められています。一方でDNA鑑定結果の評価について紛糾する事態などが生じていることも事実であり、その背景には、DNA鑑定の社会的利用や、確率・統計的意味についての合意の形成の問題があると言えます。DNA型は身体の中の細胞からも同一の情報を得られることや、本人だけでなく、血縁者の識別も可能であるという特徴を有するため、犯罪鑑識や身元確認作業において広く利用されていますので、それらの例を紹介するとともに、その評価法や問題点について概説します。

12月9日(金) ミトコンドリアからみた日本人

加藤秀章(医学研究科 法医学 講師)
ヒトが持っている遺伝子(DNA)には、自分自身の遺伝情報が記されているだけでなく、そのヒトの祖先の情報も記されています。すなわち、あるヒトのDNAを調べると、そのヒトの祖先を辿ることができ、ヒトの細胞の中にはミトコンドリアという小器官があります。ミトコンドリアDNAは母親のみからその子供に受け継がれていきます(母系遺伝)。ミトコンドリアDNAの遺伝子配列を調べると、ヒトの母系の先祖を辿ることができ、また、最近ミトコンドリアのグループと疾患との関連が次々と明らかになってきました。ミトコンドリアの解析から日本人のルーツを考えてみます。

12月16日(金) 日本人は2つにわかれる

西山毅(名古屋国立大学病院 臨床試験管理センター 助教)
人類学の研究結果より、日本人は縄文系と弥生系の2つの集団からなることが従来より提唱されてきました。近年、膨大な数の遺伝子型を測ることが可能になったため、こうして測った遺伝子型データをもとに、日本人集団がいくつもの分集団から構成されるかを調べることが可能になり、沖縄および奄美諸島の住民は、本土住民と遺伝的に分化していることが示されました。こうした研究の結果から、日本人集団の成り立ちについて明らかになった点を説明します。

1月6日(金) ウイルス性肝炎と遺伝子多型

田中靖人(医学研究科 ウイルス学 教授)
近年、ゲノムワイドに均一に配置された約90万箇所の一塩基多型(SNPs)を一括タイピングする技術が開発され、病態進展に多因子が関与すると想定されてきたH型慢性肝炎、C型慢性肝炎などにおいて、疾患感受性遺伝子が同定されました。このゲノムワイド関連解析により、C型慢性肝炎に対するペグインターフェロン+リバビリン併用療法の有効性に関連するIL28B遺伝子多型、さらにはリビリンに起因する貧血に関連するITPA遺伝子多型が相次いで発見されました。特に、IL28B遺伝子検査は先進医療にも認可され、テーラーメイド医療として期待されています。

1月13日(金) 小児疾患と遺伝子変異・遺伝子多型

齋藤伸治(医学研究科 新生児・小児医学 教授)
先天性疾患や知的障害、自閉症などの小児疾患では遺伝的要因が大きな役割を果たしています。遺伝学的観点から考えると、遺伝子の変異や多型は多様性の基盤であり、進化や種の存続のために必須の分子機構です。ヒト例外ではありません。ひとひとりの顔や性格が異なっているという多様性も同様の原理に従っていますが、一定の範囲を逸脱した場合に疾患として認識されることとなります。今回の講義では実際の小児での疾患を例にして、遺伝子変異や多型と疾患との関係を考えていきたいと思います。

1月20日(金) マイクロサテライトからみた東・東南アジアの人々の遺伝的関係

山本敏充(名古屋大学大学院医学系研究科 法医学 生命倫理学 准教授)
法医学分野で個人識別や血縁関係を調べる際に、常染色体上の4塩基リピートのマイクロサテライト(STR: short tandem repeat)を遺伝マーカーとした、蛍光標識プライマーによる市販のマルチプレックスキットが利用され、世界中で汎用されています。私たちは市販のキットに含まれる座位とは連鎖しない6個のSTRを一度に型判定で、低分子化したDNA試料にも応用可能なマルチプレックスを2002年に開発しました。これを応用した鑑定例を含め、様々な鑑定例を紹介いたします。また、常染色体上にほぼ均等に分布する4塩基リピートの105座位のSTRを用いて、日本国内や、東・東南アジアの地域に集団について解析した結果なども紹介いたします。

オープンカレッジのご案内 (第1期)

今日、科学技術は大きく進歩し、私たちはその恩恵に浴しています。科学の進歩は日進月歩であり、かつて学んだ知識は古く役立たないものがあります。また、身の回りには多くの情報が氾濫して、とれをどう自分の生活に生かしていくべきか、戸惑うことが多々あります。本オープンカレッジでは、本学の基礎・臨床分野が蓄積している最新の研究情報を、市民の皆様によりやすく解説いたします。皆様には、自己研鑽と再学習の場としてとらえ、日々の生活を充実させるものにも、また、将来の生活設計のために役立てていただければ幸いです。

・開講科目： 科目名「生活と寿命学の関わり—寿を知って安心・安全な生活」

・期間： 平成24年6月1日(金)～7月20日(金) 時間は18:30～20:00の90分授業で週1回、全8回で構成。受講者は原則として8回を通して受講をお願いします。

・募集定員： 80人

・受講料： 8,000円 開講初日にお支払いいただきます。

・募集対象： 教育・保育・福祉関係者、医療関係者、行政自治体関係者、企業関係者等幅広い社会人及び一般市民(学生・大学院生の聴講可)

・応募受付期間： 平成24年4月23日(月)～5月18日(金)

・応募方法： 往復はがき または e-メール

・応募申込記入事項： (往復はがきの往信の表裏)

<p>4 6 7 8 9 0</p> <p>名古屋市立大学医学部事務室 オープンカレッジ担当宛</p>	<p>名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1</p>	<p>(返信の表裏)</p> <p>□□□□□□□□ あなた の住所 を ご 配 入</p>
<p>1 応募科目名</p> <p>2 氏名(ふりがな)年齢</p> <p>3 住所、電話番号</p> <p>4 (e-メールアドレス)</p> <p>5 職業</p> <p>6 応募の動機</p> <p>7 緊急連絡先 (平日の昼間に連絡をとる 場合の連絡先をご記入 下さい)</p>	<p>(伺い記入して下さい。)</p>	

e-メール宛先 igakubuoc@sec.nagoya-cu.ac.jp
(上記はがきと同様に応募申込事項をご記入ください)

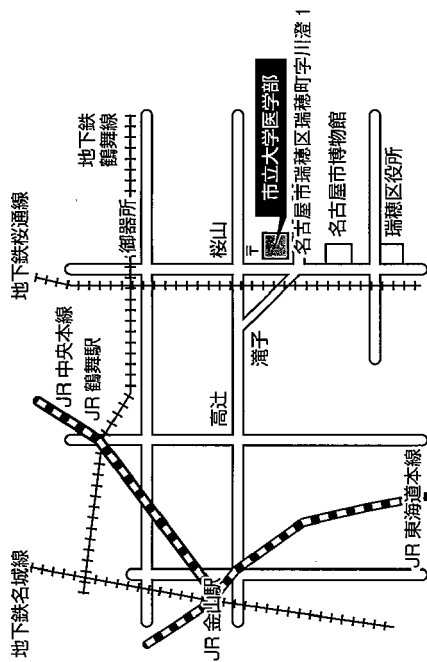
・選考方法： 応募人数が定員を超えた場合は、応募動機も参考しながら抽選することがあります。

・選考結果： 平成24年5月25日(金)までにお知らせします。

・問い合わせ先： 名古屋市立大学医学部事務室 オープンカレッジ担当
467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 tel:052-853-8077

・ホームページアドレス： <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/philanthropy/index.html>
※お寄せいただいた情報は、個人情報保護の観点から外部流出などがなく適切に管理します。また、当該目的以外には、使用いたしません。

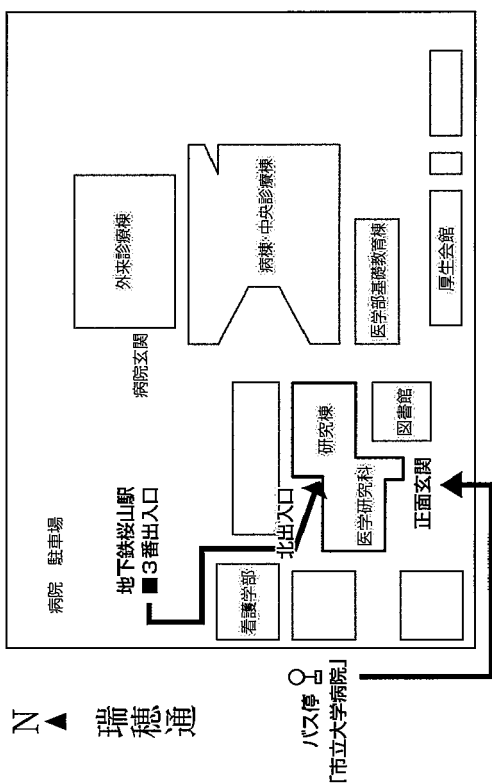
オープンカレッジ会場 案内図



〔交通機関〕

金山駅から市バス「市立大学病院」下車、または名古屋駅から地下鉄桜通線「桜山」下車

注：お車でのご来場はご遠慮ください



医学研究科研究棟 11階 講義室 A
医学研究科研究棟は、北出入口(病院側から来られるとき)または正面玄関から入って、1階ロビーよりエレベータで11階へお上がりください

このリーフレットは再生紙を使用しています。

**科目名 「生活と毒理学の関わり—
毒を知って安心・安全な生活」**
コーディネーター 医学研究科 分子毒理学分野
教授 酒々井 眞 澄

毒理学という毒を作っている危ないイメージがあるかもしれませんが、実際には、私達は普段の生活で皆さんが食べたり、吸い込んだりして体に取り込むような物質（例えば、グリシドール脂肪酸エステルやアスベスト）の安全性評価を行っています。安全性評価は毒理学の極めて重要な分野です。評価の結果は化学物質などの規制につながることもあります。今回は、毒理学がカバーする分野全般から専門家に来ていただき、皆さんの生活に役立つような情報をわかりやすく解説してもらいます。是非この機会に私達といっしょに勉強してはいかかがですか。

6月1日(金) 毒理学とは何でしょうか — 食品の安全性

酒々井 眞 澄 (医学研究科 分子毒理学 教授)
毒を選べば安心、安全な生活を送るには毒を知らねばなりません。私達の身の回りには様々な形で毒が存在します。食べ物に微量存在するもの、天然物として存在するもの、嗜好品、化粧品、医薬品に含まれるもの、職場や生活の場で吸い込むもの、付着するもの、照射されるものなどです。人の体に害になる毒についてわかりやすくお話しします。食品の安全性に関する情報をどのように知れば良いのかなどについて一緒に勉強しましょう。

6月8日(金) 毒を規制する — 化学物質の悪影響を食い止める

上 島 道 浩 (医学研究科 環境保健学 教授)
現代の文明社会に生きる私たちの生活は、化学物質なしには成り立ちません。化学物質は生活を便利にして豊かにしてくれる反面、正しく利用・管理しないと私たちの健康を害したり、また環境破壊の原因になります。このことは、その化学物質が自然由来か、あるいは工業的に合成されたものであるかを問いません。本講義では、化学物質がもたらす人体や環境への悪影響をいかに防ぐか、実例を示しながら考え方の基本や社会的取組みの現状について解説し、あるべき姿について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

6月15日(金) 病気を起こす毒物 — 毒を知って中毒を防ぐ

二 口 充 (医学研究科 分子毒理学 准教授)
毒と言えば、真っ先に思い浮かぶ言葉が「中毒」です。O157による食中毒は記憶に新しいところですが、身の回りに潜む中毒の危険性は、食中毒だけではなくヒ素、カドミウムなどの重金属、カビ、細菌が産生する毒物、蛇、虫などに噛まれた場合など、日常生活の様々な場面で中毒症状を呈する場合があります。この講義では、日常生活のどのような場面に中毒の可能性があるのかを学び、それを選別するにはどうすれば良いか? 万が一中毒となった場合にはどうすれば良いのか? について解説いたします。

6月22日(金) くすりの安全性 — 飲み方次第で薬にも毒にもなる

木 村 和 哲 (医学研究科 臨床薬理学 教授)
薬は「阿刃の剣」と呼ばれ、使い方によっては大変危険なものになります。人々の命を救う薬でも使用法を間違えれば必ず毒になります。抗生物質はなぜ細菌を死滅させ人にとって有用なのでしょう。これは人にはほとんど毒がなく細菌には毒だからです。がんの痛みを和らげるモルヒネなどは上手く使用すれば、がんの末期患者に有用な鎮痛剤となりますが、使い方を間違えば、依存性を残し快感を生む薬として使用されたり、死ぬことにつながります。この講義では、薬は使い方次第で毒にも薬にもなるということを実例で示し、わかりやすく解説します。

6月29日(金) 職場で遭遇する毒物とは — アスベストの危険性

樋 野 興 夫 (順天堂大学大学院医学研究科 分子病理病態学 教授)
アスベストは極小さい針のような形をした物質です。岩石を切り出して製造され、現在までに多くの国で広く使われてきました。アスベストを吸い込むと長い年月の経過後にがんを発症することがあります。私達は動物実験によりアスベストの吸入による中皮腫を診断可能な方法を発見しました。この研究成果をもとに2005年にわが国で初めて順天堂大学に「アスベスト・中皮腫外来」を開設し、患者の診断と治療を進める一方、建築作業員等の検診を実施してきました。私達は新たな中皮腫治療法の確立を目指しています。

7月6日(金) 毒を知ってがんを予防する — 食べ方次第で毒になる

若 林 敬 二 (鞘岡県立大学 環境科学研究所 教授)
がん細胞が発生してから症状が出るまで10~30年かかるといわれています。がんの罹患率や死亡率の動向を分析していくと、がんは予防できる病気であることがわかってきました。最近の研究で大腸がんのリスク要因として総脂肪、動物性脂肪、赤身の肉、加工肉、焦げた肉、アルコール飲料、メタボリックシンドローム等が報告されています。最近の研究成果をもとに、がんを予防するための食事、食生活のあり方、又、がん化学予防剤の開発の現状について解説します。

7月13日(金) 遺伝子を傷つける毒 — 毒を知って遺伝子を守る

中 奎 斉 (国立がん研究センター 研究所 所長)
遺伝子はらせん状の分子が長く連なった構造をしています。これをDNAと呼んでいます。DNAは生命の設計図です。私達の身の回りに存在する様々な物質の中には直接的あるいは間接的にDNAに傷(きず)をつけるものがあります。この傷は正常細胞が「がん細胞」になる最初の事象であると考えられています。このような物質を遺伝子障害性発がん物質と呼びます。この講義では、がんはどのようなようにして発生するかわかりやすく解説し、私達の遺伝子を発がん因子から守る方策を考えます。

7月20日(金) 毒のからだへの影響 — 毒を知ってからだを守る

高 橋 智 (医学研究科 実験病態病理学 教授)
毒が体に取り込まれた場合は吸収後に肝臓で無毒な物質に変換されて体外に排泄されます。これを解毒作用と呼びます。食品、食品添加物、医薬品、天然物などに含まれる様々な毒物は肝臓で代謝、解毒されます。中には臓器に対して障害性をもつ毒物も含まれています。例えば、ある種の薬剤は劇症肝炎を引き起こすことがあります。この講義ではヒトの体に障害をもたらしやすい毒をとりあげ、起こり得る臓器の障害をわかりやすく解説します。

設立記念シンポジウム

(開催趣旨)

平成23年秋、薬学研究科が保有する創薬にかかわる最先端の知的資源を有効に利用し、創薬シーズを見出す研究を遂行するとともに、創薬研究に携わる有能な人材を育成することを目的として創薬基盤科学研究所を設立し、それを記念して開催した。

- 1 主催：名古屋市立大学 大学院薬学研究科
- 2 日時：平成23年11月12日(土) 13時30分～17時30分
- 3 会場：名古屋市立大学 大学院薬学研究科 薬友会館 3F 水野ホール
- 4 対象、参加人数：教職員、学生、一般市民、民間企業研究者等 98名
- 5 テーマ、シンポジスト
 - (1) 「日本のアカデミアにおける創薬オープンイノベーション」
長野 哲雄 東京大学 創薬オープンイノベーションセンター長
薬学系研究科長 教授
 - (2) 「製薬企業からの提言：創薬イノベーションと人材の育成」
近藤 裕郷 塩野義製薬株式会社 執行役員 信頼性保証本部長
日本薬学会 医薬化学部会長
 - (3) 「大学における創薬研究に望む：医薬品審査の立場から」
内海 英雄 (独)医薬品医療機器総合機構 理事・審査センター長
 - (4) 「大学における創薬研究：医療の立場から」
上田 龍三 名古屋市病院局長
名古屋市立大学 顧問 病院連携理事 名誉教授・特任教授

**平成23年度より新しく開始する
名古屋市立大学大学院薬学研究科
東海薬剤師生涯学習センター運営規程**

ねらい

三公立連携薬剤師生涯学習支援講座の3年間の実績を踏まえ、そこで培った経験や資材、三公立大学との連携そして本学の医学部、看護学部との有機的連携ならびに名古屋市立大学薬学部同窓会(薬友会)にも協賛いただき、全国で初めての公立大学の薬剤師生涯教育センターとして本格的な研修を継続発展させていくことは、名市大が東海地区の薬剤師教育の中心的役割を担い、将来の薬学部教育の中で先導的立場を確立するために大変重要である。また、薬剤師卒後教育の推進は、新しく設置される6年制薬学部の社会人大学院への大きな布石になるとともに、実務実習などの臨床実習の指導者として質の高い薬剤師を確保することにも有用である。

1)事業母体の組織体制

本事業の実施母体は名古屋市立大学大学院薬学研究科である。平成20年に設置した三公立大学による東海地区地域連携リカレント教育センターを継承して新たに設置する東海薬剤師生涯学習センター(以下、学習センター)が主として本事業を担当、実施する。本事業は本研究科の教育活動の一環と位置付け、本研究科が責任を持って運営にあたる。

2)学習・研修の種別

三公立連携講座

三公立大学が分担して90分講義を1単位として年間9単位を目安に実施。講義は、WebによるTV会議システムを利用して、3会場での同時受講を可能とする。

他大学で行われる講義については、それぞれの大学が独立して運営管理にあたる。従って、名市大で行われる講義のみを学習センターは担当する。名市大での受講料は1年分を申込時に徴収する。

実習コース

「三公立連携講座」で行ってきた実習を大学の実習施設を利用して実施。実習は1回180分で2単位とする。実習は、受講人数を設定し、実習毎に受講生を募集する。受講人数を超えた受講希望者があった場合は、三公立連携講座受講生を優先して、事務局での抽選にて決定する。受講料は実習毎に設定し、実習時に徴収する。実習コースは愛知県薬剤師会の支援を受けて実施する。

演習コース

新しくSGDなどを中心とした演習コースを設置。講師の講義+演習を年間で定期的に行い、講義からだけでは得られない技能修得を目指す。演習コースも実習コース同様、1回180分2単位とする。受講人数を設定し、演習毎に受講生を募集する。受講人数を超えた場合は、三公立連携講座受講生を優先して、事務局での抽選にて決定する。受講料は演習毎に設定し、演習時に徴収する。演習コースは愛知県薬剤師会の支援を受けて実施する。

薬友会 卒後講座

薬友会が行う卒後講座を学習センターの認定講座として90分1単位として認定する。

本講座は薬友会が募集・実施・経理等を行い、学習センター事務局は学術・事務支援と教育センターの広報に載せるなどの補助業務を行う。

23 年度名古屋市立大学東海薬剤師生涯学習センター講座の概要

講座コース：三公立連携薬剤師生涯学習支援講座

受講料：8,000 円

開催日、メイン会場、内容、参加人数

開催日	メイン会場	内容	参加
平成 23 年 6 月 1 日(水)	名市大	医薬品の安全性確保とレギュラトリー・サイエンス	44
6 月 15 日(水)	岐阜薬大	薬剤師を取り巻く状況と薬剤師への期待	37
7 月 13 日(水)	静岡県大	2 型糖尿病の治療戦略 DPP-4 阻害薬の有用性を 中心として	44
8 月 10 日(水)	名市大	エビデンスに基づいて向精神薬を使い分ける！ ～薬理的視点から薬剤師ならではの判断を下す～	44
9 月 14 日(水)	岐阜薬大	高齢者の薬物療法	40
10 月 12 日(水)	静岡県大	ヘルシンキ宣言を理解して臨床研究推進・臨床試験 審査に役立てる	32
11 月 16 日(水)	名市大	フィジカルアセスメントの基本	33
12 月 14 日(水)	岐阜薬大	薬剤師さんに知ってもらいたい歯医者のお仕事	32
平成 24 年 1 月 11 日(水)	静岡県大	機能性食品の有効性と安全性評価	33

講座コース：名古屋市立大学薬学部卒業後教育講座

受講料：5,000 円

開催日、内容、参加人数

開催日	内容	参加
平成 23 年 9 月 11 日(日)	歯科領域における金属アレルギーの診断と治療	197
9 月 11 日(日)	緩和医療の意義と役割	
10 月 16 日(日)	合剤は降圧治療を変えるか	204
10 月 16 日(日)	創薬を支える薬物送達システム - 最適な薬物治療をめざした創剤研究 -	
11 月 6 日(日)	女性泌尿器科の最新医療 - 尿失禁と骨盤臓器脱	182
11 月 6 日(日)	認知症の全て（治療薬の現在と未来）	

講座コース：実習コース「問診の技法」

(セルフメディケーション財団：愛知県薬剤師会生涯学習特別委員会 共催)

受講料：無料

開催日、内容、参加人数

開催日	内容	参加
平成 23 年 12 月 8 日(木)	よくある症状 その 1 頭痛	6
12 月 15 日(木)	よくある症状 その 2 胸痛 付録：携帯心電計で分かることの実習	4
平成 24 年 1 月 12 日(木)	よくある症状 その 3 発熱	6
1 月 19 日(木)	よくある症状 その 4 腹痛	6

23 年度愛知県薬剤師会生涯学習特別委員会企画講座

講座コース：薬剤師のための臨床心理学演習

（名古屋市立大学東海薬剤師生涯学習センター 協力）

受講料、定員：愛知県薬剤師会会員全 7 回 7,000 円、非会員 14,000 円 30 名

開催日、内容、参加人数

開催日	内容	参加
平成 23 年 8 月 20 日(土)	非言語コミュニケーション	30
9 月 24 日(土)	非言語コミュニケーション	27
10 月 1 日(土)	緊張・リラクセーション	25
11 月 15 日(土)	がん患者会からの話	22
平成 24 年 1 月 7 日(土)	ブリーフサイコセラピー	23
2 月 4 日(土)	インクルーシブセラピー	22
3 月 3 日(土)	演習のまとめ	21

講座コース：初心者パソコン/グミ製剤/無菌操作 実習

（名古屋市立大学東海薬剤師生涯学習センター 協力）

受講料、定員：愛知県薬剤師会会員 1 回 2,000 円、非会員 4,000 円 20 名

開催日、内容、参加人数

開催日	内容	参加
平成 23 年 7 月 31 日(日)	初心者のためのパソコンを利用した E-ラーニング教室	8
8 月 8 日(日)	薬局でもできるグミ製剤 「飲みにくい薬を飲みやすくする工夫」	7
9 月 25 日(日)	初心者のためのパソコンを利用した医薬品情報の活用	20
12 月 18 日(日)	在宅で必要な注射薬の手技を学ぶ 「あなたは正しい手洗いができますか」	17

【年度計画 27】

平成23年度 「専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業」申請内容

大学名	名古屋市立大学
設置者名	公立大学法人名古屋市立大学
プログラムの名称 (全角20文字以内)	チーム医療に貢献する薬局薬剤師の養成 副題：薬学部、医学部、看護学部、附属病院が連携して実施する 地域チーム医療に貢献する薬局薬剤師養成

1. プログラム全体の理念・概要・特色（新規性、独創性を含む）（400字以内）

本プログラムは、医学部、看護学部、附属病院の支援の下に、愛知県内で在勤の薬局薬剤師を対象として、チーム医療の担い手として貢献できる高い臨床能力を育成することを目的として実施する。

処方せん調剤や在宅療養指導、健康相談などを通じて地域医療に貢献することが求められながら、病院薬剤師と異なって必ずしも十分にチーム医療を担うための研修の機会がなかった薬局薬剤師に的を絞って、薬学部のみならず医学・看護学部、附属病院の人的資源や医療研修施設の設備を活用することにより、これまで医学・看護学部、附属病院で培ってきた医療研修プログラムを基礎にして、薬剤師の実践的な臨床能力の育成を図ろうとしている点に本プログラムの特色がある。本プログラムの実施は地域医療の充実につながるだけでなく、薬局実務実習指導薬剤師（以下 薬局指導薬剤師）のレベルアップを通じてこの地域における薬学教育の向上にも資するものである。

2. 本プログラムの必要性（400字以内）

現在、東海地域の多くの実務実習病院では、チーム医療に薬剤師がすでに参加し研修の機会も持たれている。しかしながら、薬局の薬剤師は薬物療法、在宅療法、プライマリ・ケアにおいてチーム医療を実施できる可能性が大きく、在宅医療での褥瘡ケアに積極的に参画している薬局薬剤師などが出てきているのにも関わらず、他職種と連携する医療知識や技能、コミュニケーション能力等を習得し研鑽する機会がほとんど与えられていない。また、実務実習薬局の学習体制が不十分なため、実習生に対して薬局薬剤師の地域医療への対応をきちんと教育できる薬局は少なく、6年制薬学部の臨床教育において大きな課題となっている。大学が積極的に実務実習を依頼する薬局施設への研修をサポートして地域医療に貢献する高い臨床能力を持つ薬局指導薬剤師を育成することは、地域のチーム医療の推進に必要なだけでなく、6年制薬学部教育にも大きな必要性があると言える。

3. プログラムの実施体制等

(1) プログラムの実施内容・実施体制

< プログラムの実施内容 >

医療系学部連携による新しい薬局指導薬剤師研修プログラムの開発と実施

地域におけるチーム医療に貢献する薬局指導薬剤師を養成するための新しい研修プログラムを医学・看護学部、附属病院で行っている教育研修を活用して開発し、薬学部・医学部・看護学部・附属病院が連携して実施する。研修プログラムには下記の3つの領域を設定する。領域1は主に医学部、附属病院、領域2は主に看護学部の支援を仰ぎ、領域3は、医師、看護師など他医療職種とのグループ討論を通して連携を深めながら研修を行なう。研究発表能力の育成は薬学部教員のサポートにより進めていく。

領域1 < 薬剤師が医療現場で活動する際に必要な知識・技能 >

在宅療養、薬局店頭で薬物療法のリモニタリングや患者支援に活用できるフィジカルアセスメント、基本的医療用具、機器類の取り扱い、救急救命措置の基礎、褥瘡ケアなどの知識・技能の習得を目指す。フィジカルアセスメントについては実際の薬局店頭や在宅支援時に実際に活用してその有効性や問題点を考察する。

領域1の研修については、薬学部実習施設ならびに附属病院臨床シミュレーションセンター、医学部研修施設にて実施し、医学部、附属病院から派遣される教員が指導を担当する。実際の薬局店頭や在宅支援時の有効性や問題点の検証については、受講生の所属薬局や、NPO褥瘡ケアを考える会、愛知県薬剤師会等の支援を得て実施する。

領域2 < 患者に接する際に必要な知識・技能・態度 >

在宅や店頭での健康相談に対応するための医療知識やコミュニケーション技術を基本に、患者の介護支援や精神的ケアを可能にする知識・技能・態度を習得する。

領域2の研修については、看護学部の教員を中心に、附属病院の医師、看護師が連携して指導を担当し、附属病院内研修施設、医学部医学教育センターにて実施する。

領域3 < 症例等を科学的に分析し、学術的に発表する知識・技能 >

薬局指導薬剤師が薬物療法の症例を持ち寄り、薬学部、医学部、看護学部教員をチューターとして症例を検討する、あるいは学術論文をもとに薬物治療効果を吟味する等で、薬剤師自身が薬物療法の指針を積極的に考える訓練を行なう。さらに、検討した症例などをもとに臨床研究として学術的に発表するためのサポートを薬学部教員が行うことで、薬局指導薬剤師の臨床研究能力を育成する。

領域3については、医学部、看護学部、附属病院と連携し、名古屋市立大学東海薬剤師生涯学習センター（以下 学習センター）を主研修会場として実施する。

先進的な薬剤師活動を行っている医療現場の見学と情報交換

チーム医療で薬剤師が積極的に活動を行っている病院施設、病院薬剤部と地域保険薬局が連携して患者情報を共有して薬物治療に効果をあげている施設、実際に病院と在宅患者、介護支援者と連携して効果を上げている薬局施設等への見学会を年1回～2回実施して、受講生の薬剤師業務の今後の方向性を考えモチベーションを向上させる機会とする。

附属病院、実務実習実施病院・薬局等から薬剤師の積極的な活動状況について情報を収

集し、愛知県薬剤師会や病院薬剤師会とも連携して、直接現場で活躍する薬剤師と薬局薬剤師が情報交換できるような機会を設ける。

シンポジウムの開催

本研修プログラムの方向性を確認するため「薬剤師業務と生涯研鑽の今後を考えるシンポジウム」を本研修企画の1年目と3年目に実施する。講師は先進的な活動をしている現場薬剤師や大学教員等に依頼し、講師と参加した薬剤師とのパネルディスカッションも実施して受講生のモチベーションを向上させるとともに、広く愛知県内の薬局薬剤師に広報して参加を呼びかける。

<プログラムの実施組織>

研修コースの企画・実施組織：「薬剤師臨床研修委員会」

薬学部内に新しく「薬剤師臨床研修委員会」を設置して事業の実施にあたる。委員会は委員長と5名の学内委員（薬学部2名、医学部、看護学部、附属病院各1名）から成り、下記3つの小委員会を委員会内に設置する。各小委員会委員も、研修委員会委員を責任者として、薬学部、医学部、看護学部、附属病院から選出された委員で構成する。各小委員会で協議された内容は研修委員会において検討し決定する。

運営小委員会：研修の企画・実施計画等全般を協議する。

医療・情報等の安全管理もこの小委員会が担当する。

カリキュラム小委員会：本研修で実施する研修の具体的内容を協議する。

広報小委員会：薬局指導薬剤師への広報や各種団体との連携を担当する。

学内評価委員2名と学外評価委員3名の評価委員を別途置き、研修の評価を実施する。

本研修の事務的な業務を専属で行う事務職員を1名置いて対応する。

4. プログラムの実施計画

(1) 本年度の実施計画

9月～11月：

名古屋市立大学薬学部内に東海薬剤師生涯学習センターを母体に新しく「薬剤師臨床研修委員会」を設置し、運営小委員会、カリキュラム小委員会を開催して具体的な研修内容を協議する。

運営小委員会、カリキュラム小委員会からの提言を受け、薬剤師臨床研修委員会が実際の研修スケジュール、会場、講師などを決定する。愛知県薬剤師会を通して新しい研修を受講する薬局指導薬剤師の募集を開始する。

12月～3月：

新しい研修コースの実施。初年度は

領域1 フィジカルアセスメント、病棟や在宅医療で使用する機器類の取り扱い、注射、点滴の実技、救急救命措置を中心とした実習コース4科目4回(1回4時間)実施。

領域2 患者や相談客との基本的なコミュニケーション技術をロールプレイなどで学ぶ研修を2回(1回4時間)実施。ロールプレイに臨床心理士や医師、看護師などの他職種にチ

ューターを依頼する。

領域3 薬剤師が医療現場で実際に遭遇した薬物療法の症例を取上げて、そこに医師、看護師など他職種スタッフが参加して、薬物療法についての検討を行なう定期的なワークショップを3回(12月～2月毎月1回5時間)実施する。薬学部医薬品安全評価学分野教員による疫学的研究論文考察ワークショップを1回(3月)実施。

病院と薬局が連携して患者の薬物療法を支えるシステムを構築している地域の医療施設見学会を実施し、実際の病院や薬局での業務を見学するとともに、その地域の薬剤師と情報交換をして、自分達の地域での薬剤師業務の可能性を考察する。

3月：

研修委員会主催による「新しい薬剤師業務を支えるために：今、薬局薬剤師に何が求められ、何が可能か」と題したシンポジウムを実施する。このシンポジウムには先進的に医療現場で活躍している薬剤師、在宅医療で貢献している薬剤師、実務実習で進んだ指導を行なっている実務実習指導薬剤師を講師に招き、その業務について報告してもらうとともに、パネルディスカッションを行う。今後の薬剤師の方向性を確認し、さらにそれを支えるための研修についての提言を本シンポジウムから発信する。

期間が短いため、年間の研修プログラムは24年度完成を目指し、受講生もまず20名を先行募集して研修を開始。20名は次年度に未履修の科目を別枠で受講することも可能とする。

(2) 24、25年度の実施計画

24年度：

領域1 フィジカルアセスメント、医療機器取扱い、注射・点滴実技、救急救命措置は継続して実施。フィジカルアセスメントでは、血糖値やHbA1c、PT-INR測定器、パルスオキシメーターなどの測定機器を実際に薬局店頭で測定を実施し、患者や相談客などの反応や現場での課題などを考察する実習も加えて年6回の研修を実施する。

領域2 緩和ケア、認知症、心理カウンセリングの専門講師による講義や演習を加えて年6回の研修を実施する。

領域3 症例検討ワークショップの継続、プライマリ・ケア、在宅支援時の対応検討もワークショップに追加。実際の医療現場での臨床研究をサポートして学会・論文発表を進めるワークショップも開始して年10回のワークショップを実施する。先進的な薬剤師業務を行っている施設の見学会を実施。

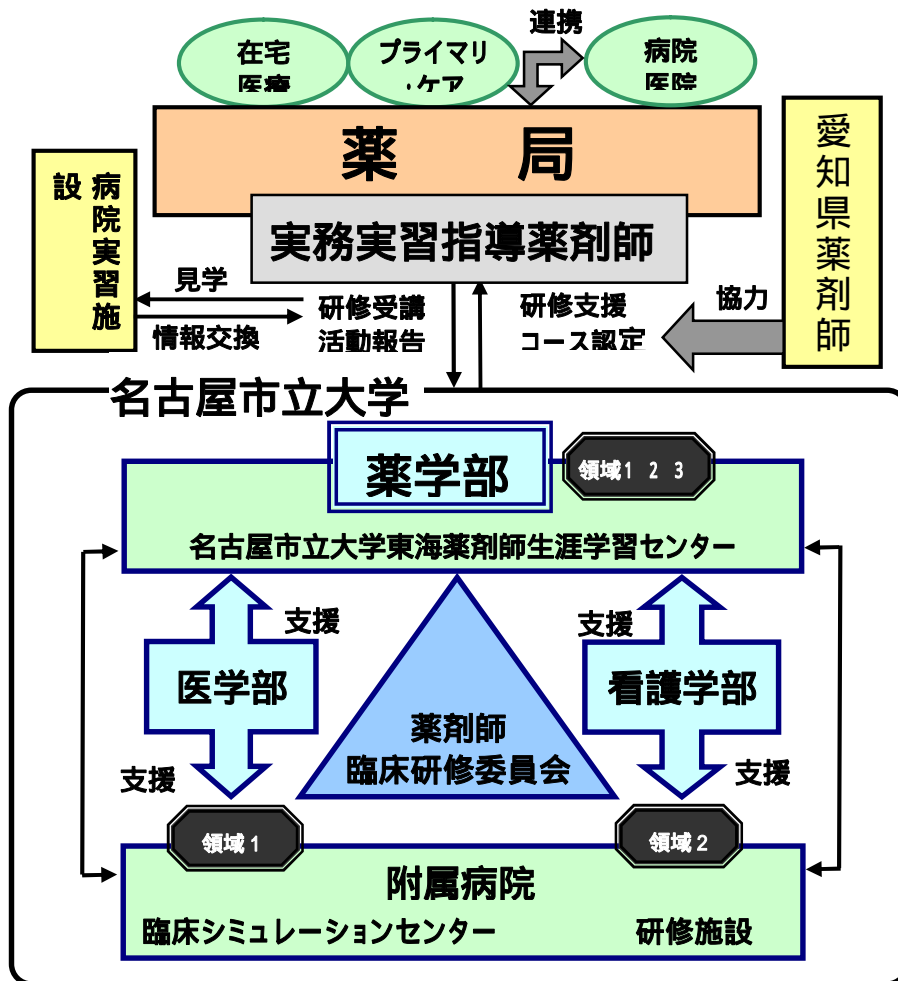
24年度に1年間の研修プログラムが完成し、年間40名の薬局薬剤師養成を行う。

25年度：

24年度の研修を継続実施。学習センターでサポートした臨床研究の学会・論文発表。3月に23年度に実施したシンポジウムの第2回を実施して、研修を受講した薬剤師、大学教員などを講師に今後の薬剤師生涯研鑽と新しい薬学部教育についての提言を行う。

(表1) 研修<領域>の具体的内容(年間研修プログラム)

	研修の内容(科目)	主たる研修会場
領域1 (5科目 年6回)	フィジカルアセスメント (聴診、血圧、血糖値、HbA1c、酸素飽和度等) 在宅医療における基本的医療機器類の取扱い 点滴や注射器具の使用方法和実技 救急救命措置 褥瘡ケアなど在宅薬物療法の実技	薬学部実習施設 附属病院臨床 シミュレーション センター
領域2 (4科目 年6回)	医療コミュニケーションの基礎 高齢者、障害者支援のための介護技術 災害時などのストレスを軽減する看護技術 緩和ケアやうつ病など精神的支援の必要な患者ケア	附属病院研修施設 医学教育センター
領域3 (年10ワーク ショップ)	薬物療法の症例検討 学術論文による科学的検討 症候学に基づく患者分析 学会・論文などの学術発表準備	東海薬剤師生涯 学習センター



(図1) 名古屋市立大学による薬局実務実習指導薬剤師研修プログラム

「チーム医療に貢献する薬局薬剤師の養成」事業 概要

この度 平成 23 年度からの 3 年間の予定で、文部科学省大学教育改革の支援事業のうち「専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業」として、本学が申請した「チーム医療に貢献する薬局薬剤師の養成」事業が採択されました。

この事業は、薬局薬剤師、特に実務実習の指導を行う薬剤師に特化して、社会のニーズに応えられる薬局薬剤師の新しい可能性を探る研修を年間計画で行うものです。

平成23年度 「チーム医療に貢献する薬局薬剤師養成 研修」予定表

日程	時間	会場	内容
12月8日 (木)	19:00～21:00	薬学部OSCE	問診の技法①頭痛
12月15日 (木)			問診の技法②胸痛
12月18日 (日)	13:00～17:00	薬学部模擬薬局	「無菌操作 在宅で必要な注射薬の手法を学ぶ」
1月7日 (土)	15:00～17:30	薬学部模擬薬局	「薬剤師のための臨床心理学演習 1月」
1月12日 (木)	19:00～21:00	薬学部OSCE	問診の技法③発熱
1月19日 (木)			問診の技法④腹痛
1月22日 (日)	13:00～17:00	薬学部模擬薬局	「学術論文の読み方と統計の考え方」
1月29日 (日)	12:30～16:00	名城大学薬学部 ライフサイエンスホール	特別シンポジウム「6年制薬学部新時代に向けて」
2月4日 (土)	15:00～17:30	薬学部模擬薬局	「薬剤師のための臨床心理学演習 2月」
2月5日 (日)	13:00～17:00	薬学部模擬薬局	「薬局で使用できる臨床測定機器の使用法とその活用」
2月19日 (日)	13:00～17:00	薬学部模擬薬局	「学術論文の読み方演習」
2月26日 (日)	13:00～17:00	市大病院シミュレーションセンター	「薬剤師のためのフィジカルアセスメント 第1回」
3月3日 (土)	15:00～17:30	薬学部模擬薬局	「薬剤師のための臨床心理学演習 3月」
3月10日 (土)	13:00～17:00	市大病院シミュレーションセンター	「呼吸困難患者の観察と対応(SPO2計測とその活用)」
3月17日 (土)	13:00～17:00	市大病院シミュレーションセンター	「薬剤師のためのフィジカルアセスメント 第2回」
2月～3月		岐阜県内の薬局連携を視察予定	地域医療見学会

各研修の解説

「問診の技法」

講師：薬学部教員

内容：薬学部教授で医師でもある藤井先生が企画・実施される演習。少人数で模擬患者の症候を問診し、SGDを行いながら病状や程度、薬物治療の方法を類推する実践的演習を行う。

「無菌操作 在宅で必要な注射薬の手法を学ぶ」

講師：薬学部教員 テルモ指導員

内容：無菌操作の基本をクリーンベンチを使用して実習する。点滴時に使用するポンプについても実物操作を実習する。

「薬剤師のための臨床心理演習」

講師：臨床心理士（薬剤師）

内容：7回シリーズの後半3回 臨床心理士を講師とした心理学の要素を取り入れたコミュニケーション能力開発演習

「学術論文の読み方と統計の考え方」

講師：薬学部教員

内容：臨床研究の論文をきちんと読解できる能力を身につけてもらうための講義と演習。初回は論文読解の基本と統計についての講義を実施。2回目は論文を実際に輪読し、演習を行う。

「特別シンポジウム」＜6年制薬学部新時代に向けて＞

関東、関西そして名古屋でフィジカルアセスメントなどを実際に活用した業務を行っている薬局薬剤師の事例を発表いただき、パネルディスカッションを予定。愛知県薬剤師会学術部会と共催。

「薬局で使用できる臨床検査測定器機の使用法とその活用」

講師：薬学部教員 機器メーカー指導員

内容：HbA1C、COL、HDL、TG、PT-INRなど自己採血で測定できる機器を実際に使用していただき、在宅、店頭相談などに活用する方法をSGDで考えていく。本研修に使用した機材は、薬局への貸し出しもOKです。

「薬剤師のためのフィジカルアセスメント」

講師：医学部教員 医学部生

内容：このアセスメントではBLS（1次救急救命）の指導者を目指す研修を受講。第1回では医学部のシミュレーターを使用した研修を追加。

第2回では医学部OSCEの説明とその実技についても実習する。

「呼吸困難患者の観察と対応（SPO2計測とその活用）」

講師：看護学部教員

内容：薬剤師にも役に立つ看護師の技術の第1回。SPO2計測とそのアセスメントから呼吸のケアについて実習する。

「地域医療見学会」

受講生が見学可能な日程を確認後、本年度は岐阜市とその周辺の薬業連携と災害時に対応した施設の見学をマイクロバス半日のコースで予定。他地域の薬剤師、医療関係者との意見交換も行いたいと考えています。

1) 名古屋市・東海地域の産業再構築とイノベーション

期間：平成 22 年度～平成 23 年度

概要：47 都道府県の民間資本ストックを、県民経済計算年報より推計し、名古屋市・東海三県と他都道府県との比較を行う。また政令指定都市に関しては、県民経済計算において GDP 統計が作成されていることから、名古屋市、東海三県との比較も合わせて行う。財務データを用いたミクロ分析では、名古屋企業の設備投資向け資金需要が、民間資本ストック、銀行競合度、その他、の要因がどの程度の説明力を有するのかを検証する。

2) 都市における生態系サービスの評価：名古屋での指数策定に向けて

期間：平成 22 年度～平成 23 年度

概要：都市部での独自の環境指数策定の基礎資料となる情報の収集と分析を加え、提言を行うことを目的とする。

具体的には、欧米の都市で主流化している、種や個体数の増減などの動向と、科学と政策を単線的な論理で結び付ける DPSIR モデルを批判的に評価し、その限界を踏まえつつ、別のモデルを模索する。例えば、題材は水のサービスなどに特化し、住民の社会価値の把握と地図での分布サービスと満足度という観点からの指数の策定を視野に研究を行なう。

都市と生物多様性を考える上で、都市の生活は都市部以外の農村、山村、漁村などの地域社会とつながっている。食糧、エネルギー源は大きく都市部以外の場所や海外に頼っている。同時に、集中豪雨や洪水の制御、空気や水の浄化といった調整の機能は、外国から輸入できるわけではなく、街の周りに生態系があってこそ成り立つものだ。「クーラーの要らない街」には、生態系が欠かせない。名古屋市で、指数を検討していく上で、食糧や水の供給サービスだけではなく、調整・制御の機能と呼ばれる、気候や空気・水の浄化といった生態系の機能についての指数化への課題を明らかにする。

3) 東海地域の経済発展と環境問題

期間：2010 年度～2012 年度

概要：東海地域の経済発展との関連において環境問題の発生とその変遷そして解決を検討し、そこから環境政策に関するインプリケーションを導くことを目的とする。主たる対象を四日市周辺あるいは東海地域として、どのような問題が未だに解決されない問題が残っているのか、どのような問題が経済発展とともに解消されえたのか、等々を検討する。環境負荷を与える要因は経済発展とともに多岐に渡り、様々な種類の環境汚染物質とそれを排出する産業や商品がある。これらについて、検討を加えながら、環境問題と経済発展の関係を検討する。それによって得られたインプリケーションが他の地域、特に発展途上経済、に対してどの程度一般性をもつかも検討する。

【年度計画 29】

平成 23 年度 プロジェクト研究の概要

1) 「名古屋の『観光まちづくり』に関する人文社会科学分野からの学際的研究」

代表者：山田明

平成 18 年度から継続する研究で、人文社会学部専門科目「名古屋と観光」と連動させながら、学生や市民に名古屋の観光まちづくりへの関心の喚起につとめている。平成 23 年度は、市博物館学芸員を交え、名古屋の近代化の足取りを確認、また東日本大震災を受け名古屋の防災減災のありかたも課題に加え、調査をおこなった。

2) 「文学と精神分析 フロイトの方法的有効性」

代表者：土屋勝彦

今年度からの新しいテーマである。フロイトの精神分析の方法意識が今なお文学研究において有効であるとすれば、どのような形式、方向において可能であるのかを、ゲーテ、ジャン・パウル、カフカ、イエリネク、グリム童話、現代における越境作家などを対象に追究している。

3) 「市博物館・地域と市立大学との連携による街づくり」

代表者：阪井芳貴

人文社会学部現代社会学科 2 年専門科目「社会調査実習」阪井班の活動（課題「博物館に若者を呼び込む方法」）を支援しながら、「はくぶつかんまつまつり」、「ワークショップ」、「九州国立博物館」との連携などを通して、新たな市大と市博物館の連携がもたらす桜山の街づくりを検討した。

4) 「18 才のハロー・ファミリー 次世代育成支援のための基礎的研究」

代表者：石川洋明

平成 22 年度から継続研究である。次世代育成支援のために、子ども・子育てに関する現状把握、次世代育成支援施策の検討、若い世代に対し発信すべきメッセージの検討などをおこなってきたが、平成 23 年度は自立調査および条例調査のデータ分析を中心に、研究の最終的なまとめをおこなっている。

【年度計画 29】

平成 23 年度 講演会・シンポジウム「文化財を守る」
(人間文化研究所と名古屋市博物館との共催)

テーマ：「文化財を守る - 東日本大震災の教訓から - 」

日時：11月26日(土) 13:30～16:50

会場：名古屋市博物館講堂

参加人数：40名(大学院生・博物館学芸員を含めると50名)

概要

(1) 講演会

講演者 藤原徹 東北芸術工科大学教授

講演の概要

藤原教授自身の被災体験を導入に、大震災によってもたらされた文化財や博物館等施設への被害の実態、その修復作業の現状について、スライドを用いながら、きわめて具体的に説明がなされた。

(2) シンポジウム

パネリスト 藤原徹氏・瀬川貴文名古屋市博物館学芸員
山田明名古屋市立大学人間文化研究科教授
(司会：阪井人間文化研究所長)

シンポジウムの概要

藤原氏の講演を受ける形で、東日本大震災の被災地での文化財レスキューに名古屋市から派遣された瀬川市博物館学芸員と、被災地での調査を数次にわたりおこなってきた山田明教授の報告があり、震災・津波への対応、特に、近い将来東海・東南海・南海地震が発生すると指摘されている名古屋市内の文化財をどのようにして守っていくかについて議論した。昨年の講演会・シンポジウムでは、市立大学と市博物館と地域の連携による新たなまちづくりを模索したが、その成果を踏まえつつ、市民の貴重な文化財を守るために大学と博物館が何をすべきかを、来聴者とともに考える機会になった。

名古屋市立大学 人間文化研究所

人間文化研究所・名古屋市博物館 共催

公開講演会・シンポジウム

文化財を守る

— 東日本大震災の教訓から —

市民の貴重な文化財を守るために大学と博物館が何をすべきかを、東日本大震災被災地において文化財の復興に携わっておられる東北芸術工科大学の藤原徹教授の基調講演と、藤原氏と名古屋市から文化財レスキューとして派遣された瀬川貴文市博学芸員を交えてのシンポジウムとで、来聴者とともに考えていきたい。

講演者..藤原徹東北芸術工科大学教授

シンポジウムパネリスト..藤原徹氏・瀬川貴文氏(名古屋市博物館学芸員)

山田明氏(名古屋市立大学教授)

日時：11月26日(土) 13:30～

会場：名古屋市博物館講堂

地下鉄桜通線「桜山」下車 4番出口から徒歩2分

入場無料

事前申込不要(先着200名様)

お問合せ先：人間文化研究所 052-872-3536
institute@hum.nagoya-cu.ac.jp

「建築遺産の保存：研究と応用」企画展・国際シンポジウム

イタリアのトリノ工科大学、パドヴァ大学、ミラノ工科大学から3名の外国人講師、日本からは文化庁、株式会社文化財構造計画(元公益財団法人文化財建造物保存技術協会)の方々を講師として招聘し、「地震リスクから歴史的建造物を守るための最新技術」、「歴史的建造物を活用したまちづくり」に関する講演を実施。

本企画は、本研究科教授が、イタリア政府の助成金や独立行政法人日本学術振興会の科学研究費補助金を得て、パドヴァ大学、トリノ工科大学と共同で行っているイタリアのラクイラでの被災地調査や歴史的建造物保全技術の開発に関する共同研究を契機として実施したもの。

【企画展】

会 期 平成 23 年 11 月 23 日(水)～11 月 27 日(日)
 平成 23 年 12 月 5 日(月)～12 月 16 日(金)
 9:00～17:00 11 月 23 日(水)は 14:00～17:00

場 所 名古屋市立大学芸術工学部(名古屋市立大学北千種キャンパス)
 芸術工学棟 1 階 西ギャラリー

【国際シンポジウム】

日 時 平成 23 年 11 月 27 日(日) 13:30～17:00

場 所 名古屋市立大学芸術工学部(名古屋市立大学北千種キャンパス)
 芸術工学棟 1 階 M101 教室

参加者 約 40 名 本学学生、教員、市職員等

アンケート結果(アンケート回収数 8)

性別	男性：5 女性 3
年齢	20代：2 30代：2 50代：3 60代：1
職業	公務員：5 教員：1 学生：2
住まい	名古屋市内：6 名古屋市外：2
情報入手媒体	ポスター：1 家族・知人紹介：4 大学HP：1 その他：2
参加動機	自分の仕事に役立つ：3 テーマに興味：5
感想	大変よかった：2 よかった：6

添付資料：案内チラシ

国際シンポジウム

PRESERVATION of ARCHITECTURAL HERITAGE: RESEARCH and APPLICATION

建築遺産の保存：研究と応用

2011年11月27日(日)
13:30 ~ 17:00

名古屋市立大学北千種キャンパス
芸術工学棟 M101 教室

参加費 無料

〒464-0083 名古屋市千種区北千種 2-1-10 問合せ先：TEL: 052-721-1225(芸術工学部事務室)

<http://www.nagoya-cu.ac.jp/sda/1015.htm>

建築遺産の保存：研究と応用

2009年4月6日に発生したイタリアのラクイラ地震、その後のインドネシア、ハイチ、チリ、ニュージーランド地震、トルコ地震、そして2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震にみられるように、世界各地で大規模地震が発生し、文化遺産である建築遺産が被害を受け、その修復・補強が急務になるとともに、地震によるリスクから建築遺産を保護する必要性が高まっている。

イタリアー日本の研究者交流・共同研究に関するイタリア政府の助成プログラムであるエグゼクティブ・プログラム(EP)の「文化遺産に適用する技術」分野において、名古屋市立大学とパドヴァ大学の『歴史的組積造建造物の動的挙動の特性評価』に関する共同研究が2010年に採択され、地震リスクから歴史的な建築文化遺産を保全するために様々な研究分野の展開ー現場実験や実験室実験と解析ーが実施されている。

『日本におけるイタリア2011』において、その成果である建築遺産の調査・診断・補強・保存技術に関する企画展を開催するとともに、建築遺産の保存のあり方、調査・診断・補強・保存技術、有効活用の事例報告と、建築遺産を活かしたまちづくりのあり方について幅広い意見交換と討論を行う。

内容

1. 主催者挨拶 戸菊 創 学長 (名古屋市立大学)
2. 主旨説明 青木 孝義 (名古屋市立大学)
3. 主題解説
 - 1) 「イタリアの建築と都市デザイナー新旧」
マリアグラツィア・フォッリ (ミラノ工科大学)
 - 2) 「建築遺産の保存：研究と応用」
マリアローザ・ヴァッルツィ (パドヴァ大学)
 - 3) 「建築遺産の保存例」
ーシンドーネ礼拝堂とトリノ国立映画博物館
パオロ・ナポリ (トリノ工科大学)
 - 4) 「日本の文化財建造物の保存修理と耐震対策」
西岡 聡 (文化庁)
 - 5) 「日本の文化財建造物の構造診断と構造補強」
富永 善啓 (株式会社文化財構造計画・
元公益財団法人文化財建造物保存技術協会)
4. 討論
5. まとめ



<主催>名古屋市立大学大学院芸術工学研究科附属環境デザイン研究所
<後援>名古屋市、財団法人文化財保護・芸術研究助成財団



名古屋市立大学



パドヴァ大学



イタリア外務省



日本における
イタリア 2011

Institute of
Artificial Social
Environment
Design

芸術工学研究科附属
環境デザイン研究所

「3.11 東日本大震災への追悼展覧会 失われた街」

「3.11 東日本大震災への追悼シンポジウム 生と命の街へ」

本研究科教員はじめ全国13大学の建築系研究室が参加し、14か所の被災地を調査、震災以前の街を模型として復元し、展示する展示会を開催。また、震災を再認識するとともに今後の名古屋市をはじめとする我が国の街にどのようなビジョンが必要とされるのかを考えるきっかけとなるよう、名古屋市関係者や建築・都市に関わる学識者との意見交換のシンポジウムを開催した。

【展覧会】

会 期 平成24年3月17日(土)～4月7日(土)

平日のみ開催(ただし3/17,4/7は開催)

10:00～17:00

場 所 名古屋市立大学芸術工学部(名古屋市立大学北千種キャンパス)

芸術工学棟 1階 アトリウム

展覧会見学者数(記帳者のみ、3/28現在) 約140名

【シンポジウム】

日 時 平成24年3月20日(火)14:00～17:30

場 所 名古屋市立大学芸術工学部(名古屋市立大学北千種キャンパス)

大講義室

参加者 約150名 一般市民、本学学生、教職員等

アンケート結果(アンケート回収数 55)

性別	男性：33 女性21 不明：1
年齢	10代：4 20代：34 30代：4 40代：8 50代：2 60代：2 不明：1
情報入手媒体 (複数回答可)	新聞：0 ポスター：14 家族・知人紹介：28 大学HP：5 その他：10
感想	大変よかった：35 よかった：14 ふつう：2 よくなかった：0 不明：4

添付資料：案内チラシ

3.11 東日本大震災への追悼展覧会

失われた街

～ LOST HOMES: The Requiem for 3.11 ～ 3.11 のための鎮魂の復元模型 14 展

2012年3月17日(土) - 4月7日(土)

平日のみ開催(ただし、3月17日、20日および4月7日は開催)

開催時間

10:00～17:00(入場無料)

会場

名古屋市立大学北千種キャンパス
芸術工学棟 1Fアトリウム

<http://www.nagoya-cu.ac.jp/sda/>



3.11 東日本大震災への追悼シンポジウム

生と命の街へ ～ Towards a City Envisioning Life, its Meaning and / or Security ～

開催日: 2012年3月20日(火・祝)

開場 13:30 / 開演 14:00 / 終演 17:30 (夜会 18:00～19:00)

会場: 名古屋市立大学北千種キャンパス大講義室

定員: 250名 * 事前申込制

申込期間: 2012年3月1日(木)～3月16日(木)必着。*ただし、定員に達し次第、締切とさせていただきます。

申込方法: 下記申込先宛に、Eメール、FAXのいずれかの方法でお申込ください。*お申込の際は、「住所」「氏名」「電話番号」を必ずご記入のうえ、表題に「[生と命の街へ]シンポジウム申込」と明記ください。*お申込いただいた方には、登録番号を記した返信をお送りしますので、当日に必ずお持ちください。

申込先: 名古屋市立大学芸術工学部事務室シンポジウム担当

FAX / 052-721-8110 Eメール / LOSTHOMES@ada.nagoya-cu.ac.jp

主催: 名古屋市立大学大学院芸術工学研究科 環境デザイン研究所 企画: 久野紀光 (建築家・名古屋市立大学准教授)
協賛: 総合資格学院(株)中部資格 後援: 名古屋市 / 中日新聞社 / (社)日本建築学会東海支部 / (社)日本建築家協会東海支部 / ArchiAid
協力: TOTOギャラリー・間 / 「失われた街」複製復元プロジェクト実行委員会 / 日本スペースイメージング株式会社

総合資格学院
Archi Aid

